

令和5年度第4回豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- **日 時** 令和6年3月6日（水） 午後2時00分～3時30分
- **場 所** とよた男女共同参画センター 21会議室
- **出席者** 懇話会委員 石田路子、吉野まり子、尾原洋子、石田 祐己、
岩月由紀子、佐竹裕子、榎由佳
事 務 局 市民活躍支援課長 小澤
とよた男女共同参画センター 伊藤、村上、宮地
- **欠席者** 新谷 千晶、池北 真一、古賀 康二郎

1 開会

小澤課長挨拶

2 議事

（1）令和5年度男女共同参画社会に関する意識調査（中学生）の調査結果について

事務局が資料に基づき市中学生の調査結果を説明。

<中学生の調査結果について 意見>

A 委員	問8「女は家庭、男は仕事という考え方」について、「賛成」「どちらかといえば賛成」が市民意識調査より中学生の方が多いという結果は意外。
B 委員	内容ではないが調査方法について、学校での一斉実施であれば回収率は概ね100%になると思うが、そうではないのは家庭に持ち帰って実施したからか。
事務局	中学生調査はWEB回答のみ実施した。生徒が回答するタイミングについては各学校に委ねており、生徒にも回答は強制していない。仮に学校で時間を取って一斉に実施したとしても、回答したかどうかを教員がチェックしているわけではなく、あくまで生徒の自主的な回答になっている。
C 委員	子どもたちが感覚として「女性が優遇されている」と感じているのは意外だった。また、社会の状況をまだまだ知らないのだなと改めて感じた。

D 委員	家庭での男女の地位について、平等と感じている子どもが多いことは、学校教育の影響があるのではないかと思うが、「女性が家庭を守り、男性が働くべき」と考えている子どもが、大人より多いことにギャップを感じた。子どもたちはこれから成長し、社会状況を知って価値観が変わっていく時期であるため、学校教育が担っていく部分もあると思う。
E 委員	問3の男女平等観で、「女性の方が優先されている」と感じている子どもが多かったことが非常に興味深かった。これは、女性が優先されていることを肯定的にとらえているのか、否定的にとらえているのか、中学生に取材してみたい。この調査は今年度だけ行っているのか、10年前だったらどのような結果になっていたのか、推移が知りたい。また、性別によって考え方に差があるのかも知りたい。
A 委員	今回の調査で、中学生の認識として「女性優遇が強い」ということは1つのポイントになると思う。具体的にどのようなところに対してそう感じているのか、聞き取ってみたい。学校生活において、この傾向が強かったことについては、「力仕事は男子がやる」のような風潮があったりするのではないかと思う。また、多様性に関する言葉の認知度の高さに驚いた。多様性に関する情報源として、一番多かったのは何か。
事務局	学校 47.3%、テレビ 42%、インターネット 34.5%となっている。
F 委員	設問について、問 11 女性が仕事をする事についての問で「働き方を変える」という選択肢もあればよかった。この選択肢を見せることで、中学生に気づきを与えることができるのではないかと思う。「仕事をする＝家にいない」ではないということを知ってほしい。親に対する「平日に学校の行事に来てほしい」、「家にいてほしい」という気持ちや、自分が将来子どもにそうしたいという気持ちが反映された結果であれば、在宅勤務など働き方を変える選択肢の存在を知ってもらうことが大切だと思う。女性優先ということについて、生徒会長が女性になった方が話題になったり、女性上司がドラマで注目されたり、表面的なところだけを受け取ってしまい「ひがみ」のような気持ちが入っているのではないか。単純に女性が役職に就くからすごいのではなく、仕事と家庭を両立しながら活躍していることがすごいことなのであり、それに対する支援等が存在する意味も知ってもらえたらいいと思う。そのギャップを埋める手段の一つとして、職場体験やラーケーションなどを活用して、女性が働きながら活躍している姿を見せたい。
A 委員	中学生に対する調査は、今回初めて実施し、改善点も見えてきたため、今後に生かしていけるとよい。

(2) (仮称) 第5次とよた男女共同参画プランの骨子(案)について

事務局が資料に基づき(仮称)第5次とよた男女共同参画プランの骨子(案)について説明。

<説明資料、骨子(案)について 意見>

F 委員	資料内、女性の就業状況についてのグラフについて、就業の基準は何か。正規・非正規なのかボランティア等は含むのか。
事務局	正規・非正規に関わらず、賃金を得ている就業のみとなっている。市民団体などの社会活動については含まれていない
F 委員	審議会への女性の登用率について、豊田市は愛知県と比べても低いという結果や、全国に比べて女性の就業率が低い結果があるが、少ないことは逆に伸びしろがあるとも言えるので、私のように市民公募委員としてオンラインで参加している人もいるということをアピールしてもらうことで、多様な働き方が広がったり、女性の社会参画促進に少しでもつながればいいと思う。
A 委員	審議会委員の女性比率が令和2年で下がっているが、何か要因があるのか。
事務局	大きな転換点や要因があったわけではないと思われる。市民公募委員だと、男女半々という結果になっているが、いわゆる「充て職」は母集団に男性が多いと必然的に男性が委員になることが多く、審議会委員にも偏りが出してしまうと思われる。他にも要因がないか分析する。
A 委員	計画骨子案中の取組の方向性の1つ「女性の就業や社会活動の促進支援」について、女性に就職先を紹介するイメージか。
事務局	産業労働課の所管になるが、女性仕事テラス「カプチーノ」で面接相談やセミナーなど女性の就職支援をワンストップで実施している。女性の就業支援についてはこの事業の継続についても検討する。
G 委員	育児短時間勤務について、トヨタ自動車では子が18歳になるまで利用可能となっているが、自分が所属する会社ではまだ小学校1年生までで、小学校4年生までに引き上げられないか交渉中である。女性が社会で活躍していく上で、育児短時間勤務などの取得可能範囲を広げていく必要があると思っている。労働組合がある会社はよいが、組合などの組織がないと、就労者からは言えない事業所もあると思うので、女性が仕事と両立しながら活躍できるよう、市からの支援してほしい。
A 委員	市役所は何歳までなのか？
事務局	豊田市は小学校就学前まで。子どもが小学校1年生になると育児短時間勤務や育児部分休業などの制度の対象外となる。

G 委員	自分自身の経験からも、子どものことを考えたら、こども園での保育時間を延長するのではなく、企業側が制度を変えていくべきだと強く感じている。
D 委員	本校で実施されている学童保育は 18 時までとなっている。学校現場でも、男性教諭も育休を取得しており、少しずつ働きやすい環境になってきている。子どもたちに対してもそうした姿を見せていくことや、今後も固定概念をなくしていくなど、教育の場で伝えていきたい。
B 委員	こども園は午後 7 時まで保育してくれるが、フルタイムで働く女性だとそれでも間に合わないのが、働くママたちのサポートをもっとして必要があると感じる。育休に関しても、大企業では 100%取得できているとしても、中小企業では従業員が少なく取得できないということもある。ファミリー・サービス・クラブで活動しているが、ファミリー・サービス・クラブも人手不足で依頼に十分に対応できず、育休取得に関して市の支援があればいいなと感じる。
E 委員	話を聞いている中で、主語はどうしても「働くママ」など女性になると感じた。またこれからの未来について若者に希望を感じた一方で、若者にもアンコンシャス・バイアスがあると感じた。学校現場でもそのようになっていたのは驚きだったが、少しずつ改善していければと思う。メディアが与える影響もあると思う。高齢者については認知度は低くても、学習意欲が高く理解は早いという方もいるため、若者と高齢者といういろいろな年齢層の方に、それぞれ適した場面で主役になってもらい、社会として支え合っていけたらいいと思う。
A 委員	「困難を抱える女性」については、どのような困難か。イメージできない方が多くいると思うので、これについては注釈を入れる必要があると思う。どのような女性に対して、どのような支援を行っていくのかを明示しなければならない。国の定義はないのか。
事務局	国が示している定義は非常に広義。売春防止法がもとになっており、コロナ禍を経て様々な課題が顕在化し、「孤独・孤立対策」といった視点も含め、議員立法で成立した法律である。具体的にどのような支援ができるかについては、県の基本計画を参考にし、庁内の福祉関係課と連携しながら検討していく。

3 閉会